

平成4年度

米沢市立上杉博物館年報

Vol. 5

刊行にあたって

平成4年は、第47回国民体育大会（べにばな国体）の開催年にあたり、当市においても水泳、軟式野球、弓道、フェンシングの各競技を開催したところであります。

開館25周年をむかえた本年は「出版の文化史」を始め5件の特別展を開催いたしました。

上杉家文書「戦国武将の書簡展」では、戦国武将の書状を紹介するとともに、重要文化財「洛中洛外図屏風」を中心に展示いたしました。

又、「昆虫展」では、毎年テーマを設定しながら、昆虫標本を公開し本年は「四季虫街図尽」と題し展示いたしました。更に「絵図で見る城下町米沢展」では、米沢城下絵図を中心に展示し、その色づかひの美しさ精密な記載や地図の魅力を紹介するなどの展示事業を開催したところであります。

当館は、管理運営をお願いしております（財）上杉文化振興財団のご協力によりまして事業が円滑に促進するなかで、多くの方々にご観覧いただいております。

また、米沢市歴史民俗博物館構想懇談会からの御意見を活用し、本市の特性に適合した新たな博物館の建設に向けて準備を進めております。今後とも、市民に親しまれる市立上杉博物館となるよう努力する所存でありますので、なお一層のご協力、ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成6年3月

米 沢 市 教 育 委 員 会

教育長 小 口 亘

目 次

○館の概要	1
・目的と沿革	
・施設	
・博物館日誌	
○平成4年度事業	4
・展 示 (1) 戦国武将の書簡	4
－信長・秀吉・家康－	
(2) 出版の文化史	7
－江戸から明治へ 絵入り・錦絵の世界－	
(3) 第3回昆虫展	10
－四季虫街図尽－	
(4) 第22回日本刀展	12
－室町・戦国時代の名刀展－	
(5) 絵図で見る城下町米沢	14
(6) 館蔵品展	17
・収 集 平成4年度受入資料	18
収蔵資料件数	20
○平成4年度 入館状況調	21
○組織・名簿	22
・市立上杉博物館協議会	22
・財団法人米沢上杉文化振興財団	23
・米沢市上杉博物館	24

館の概要

目的と沿革

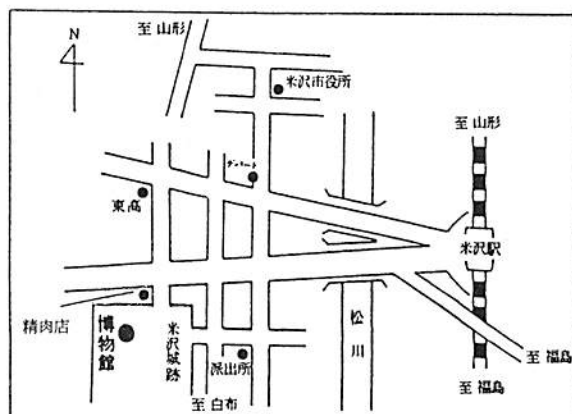
米沢市立上杉博物館は、その前身として米沢郷土館・市立米沢郷土博物館・市立米沢博物館があった。これらは南置賜郡役所や市立図書館に併設されていたが、昭和42年、市民の教養の向上と学芸および文化の発展を図るため、博物館施設として現在の位置に独立した館が建てられ名も米沢市立上杉博物館となって、そのあゆみを始めた。

当館では、価値ある資料を収集・保管し調査研究に基づく展示を行って教育的配慮の下に一般の利用に供すること、人々の教養・調査研究・レクリエーション等に資するために必要な事業を行うこと、資料に関する調査研究を行うことを目的としている。

- 昭和5年10月 元南置賜郡役所に米沢郷土館設置。
- 昭和13年4月 市政50周年記念として米沢市に移管され市立図書館に併設。
- 昭和27年9月 博物館相当施設として登録、市立米沢郷土博物館と称す。
- 昭和30年9月 市立米沢図書館に移転（旧市立米沢図書館）。
- 昭和37年7月 博物館法による設置条例制定、市立米沢博物館と改称。
- 昭和41年11月 丸の内一丁目4番13号に、市立米沢博物館新館完成。
- 昭和42年4月 博物館法による設置条例制定、米沢市立上杉博物館と改称。
- 昭和42年6月 博物館施設として登録。
- 昭和43年5月 社団法人上杉博物館協会設立。
- 平成2年3月 財団法人米沢上杉文化振興財団設立

施設

総	面	積	471.0 m ²
陳	列	室	129.6 m ²
展	示	室(兼)ホール	126.6 m ²
収	蔵	庫	51.84 m ²
研	究	室	32.4 m ²
事	務	室	9.72 m ²
映	写	室	4.86 m ²



平成4年度 博物館日誌

- H4. 4. 1 最上義光記念館へ資料貸出し(9点) 5/19 8点返還(内訳:上杉謙信書状(宗心書状) 志駄千代松あて、上杉謙信書状 上条弥五郎あて、伊達政宗書状 久米宇右門衛あて、上杉景勝書状 三瀨右近大夫あて、直江兼統書状 立岩喜兵衛あて、直江山城守重光書状 三瀨式部あて、上杉景勝書状 嶋津左京亮あて、上杉謙信自筆 以呂波盡手本(複製))
4. 10 仙台市博物館より展示資料借用 5/13返還(内訳:武智光年大多春忠の居城をせめる図、武田勝頼天目山陣取(芳虎画)、豊臣昇進録(以下、芳年画)、豊臣勲功記・兵曾加部掘之陣江夜討ノ図、本能寺合戦、桶狭間合戦、稲川義元朝臣陳歿之図、酒井忠次時敷打之図)
4. 14 山形放送テレビ撮影
4. 18 特別展「戦国武将の書簡」開催 5月10日まで
4. 19 日本テレビ放送撮影
4. 21 下水道工事完了
4. 22 Y. T. S撮影。山形県立博物館より来館
4. 29 上杉名誉会長来館
4. 30 ヘリポート開港記念式典関係者見学
5. 8 東北学院大小林氏来館
5. 13 記録写真撮影
5. 22 「館藏品展」開催 5月30日まで
5. 23 大町 木村氏の「文久3年上洛の図」他 寄贈品受領
5. 27 吉池氏の「はさみ箱」寄贈品受領
5. 31 アン・ヘリング氏、助手 浅野氏来館
6. 1 法政大学教授アン・ヘリング氏講演会 3時30分から。
題「江戸・明治子どもの本で綴る出版史」 レセプション 5時30分～7時30分
6. 3 特別展「出版の文化史」開催 7月4日まで
6. 8 アン・ヘリング氏来館。一部展示替
6. 19 遠藤氏来館
6. 21 アン・ヘリング氏来館。三春町より来館
6. 28 福島県立博物館より来館
7. 3 鮭川村文化財保護委員 来館
7. 5 アン・ヘリング氏、浅野氏撤去作業の為来館。展示品撮影～6日
7. 9 市会計課より、窪島紫陽画(南部小所蔵)破損品預り 7/15表具直し
7. 18 特別展「第3回昆虫展」開催 8月27日まで。静岡県史編さん室より来館
7. 19 仙台市山谷氏来館
8. 4 城下絵図写真撮影
8. 29 館藏品展示室入れ替え
9. 1 Y. B. C撮影

- 9. 3 日本刀展展示協力 刀剣協力支部会員来館
- 9. 4 特別展「第22回日本刀展」開催 10月11日まで
- 9. 5 東京都 鈴木知事 来館
- 9. 11 山形市の津田氏 来館
- 10. 11 「日本刀展」撤去作業指導の為、飯田俊久氏 来館
- 10. 12 屋根工事（玄関外）
- 10. 18 特別展「絵図でみる城下町米沢」開催 11月29日まで
- 10. 20 会津、板下町高寺公民館、千葉県みさき町教育委員会より来館
- 10. 21 高鍋市教育委員会より来館
- 10. 23 13市職員研究で20名来館
- 10. 25 日本テレビ「知ってるつもり」撮影
- 10. 27 NCV取材
- 10. 31 「日本刀展」展示の火縄銃返還（借用期間10/31まで）
- 11. 3 文化の日、無料公開
- 11. 10 興譲小4年生70名、万世園13名来館
- 11. 18 岩瀬氏来館、梅津宮雄氏の煙草盆各種 寄贈品受領
- 11. 21 会津若松市上杉氏の寄託品2点
- 11. 26 市長室にて木村氏の寄贈品「上杉家大名行列絵図」受領
- 11. 27 市議会議員（文教厚生委員）視察
- 11. 30 市立米沢図書館へ城下絵図資料返還
- 12. 2 上杉家管理事務所、南陽市結城記念館他へ城下絵図借用資料返還
- 12. 15 関川村役場より視察
- 12. 16 南陽市社会教育課より来館
- 12. 22 南陽市教育委員会写真撮影。会津高田町上杉氏 来館
- H5. 1. 12 和歌山県立博物館より来館。五中教員佐藤氏 学芸員研修で来館
- 2. 4 国土庁関係者来館
- 2. 5 愛知県明和高校事務長来館。雪下ろし作業
- 2. 9 酒造資料館「東光の酒蔵へ」寄託品能衣装より3点貸出し
- 2. 11 「東光の酒蔵へ」寄託品能面3箱8面貸出し
- 2. 23 秋田県「佐竹資料館」本山氏 来館
- 3. 16 臨時休館、新収蔵品写真撮影。午後1時30分より上杉博物館資料審査会
- 3. 18 週刊宝石社取材
- 3. 24 「中条家文書」寄贈者の中条氏 来館
- 3. 25 大塚巧芸社、「洛中洛外図屏風」複製色合わせで来館
- 3. 28 梅津宮雄氏より箱膳、包丁寄贈受領
- 3. 30 陳列室、トイレ修理工事～31日

平成4年度事業

展 示

(1) 戦国武将の書簡

国指定重要文化財「上杉家文書」は中世史研究上の重要な史料であるとともに、文書の生きた姿がまとまって伝えられた唯一の遺品として高い評価を得ている。

その中には上杉謙信、上杉景勝、直江兼統、伊達輝宗、伊達政宗、武田信玄、武田勝頼、北条氏綱、北条氏康、北条氏政、芦名盛氏、佐竹義重、毛利輝元ときら星のごとく戦国武将たちが登場するが本年度は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と天下統一に関わった3人の戦国武将の書状を中心に展開した。

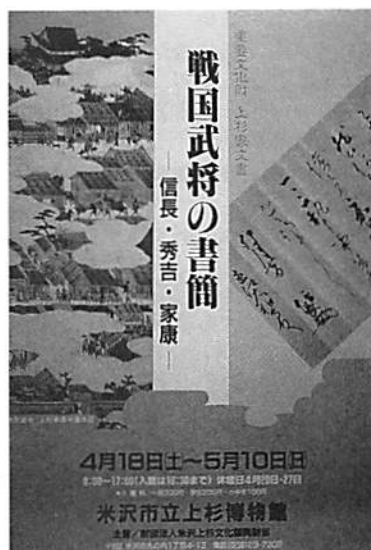
(永禄12年)2月10日の織田信長書状は室町幕府將軍足利義昭が武田信玄と上杉輝虎(謙信)の和睦をはかり、上杉輝虎の出兵をとどまるようにすすめた御内書に対する副状である。(天正8年)7月6日の豊臣秀吉朱印状は、上杉景勝等に忍城(武蔵北崎玉郡)へ向かわせ堤普請を命じ、14、15日頃岩槻におもいた際、忍の堤普請を見聞することを記したものであるが、文中、秀吉は小田原城の北条氏政はじめ重臣を切腹させ、城内の兵を助命することとしたことを報告している。秀吉の小田原征伐において、北条氏直がついに降伏したのは天正18年7月5日であり、この文書が翌日のものであることを考えると、文書を前に緊張感が高まる。(永禄12年)2月18日の徳川家康の書状は、家康が遠江掛川城を包囲し、今川氏真を攻めた時のものであり、まもなく城は落ちるであろうから、上杉輝虎家中の謀叛を平定するよう、上杉家の重臣河田長親に宛てたものである。この文書は切封でとじたのち、包紙は捻封で折跡×が上下に残っている。当時の書状のあり方を知ることが

できる重要な上杉家文書の一例である。(P6写真)以上、例にあげたような武将たちのかけひきなど歴史的に意味のあるものから、年頭の挨拶まで様々であるが、信長、秀吉、家康の特徴的な花押や印章の実物を見る機会であった。

古文書の展示は専門的であり、その方法には考慮すべき点も多いが、上杉謙信が織田信長から贈られたと言われる重要文化財上杉本洛中洛外図屏風、戦国期の甲冑や刀、戦国武将たちや歴史的な場面を描いた武者絵などともに戦国時代に想いを馳せた展覧会であったと思われる。

会 期	平成4年4月18日～5月10日
主 催	米沢市立上杉博物館
主 管	財米沢上杉文化振興財団
入館者数	一般2,851人、学生260人、小中生325人、団体一般22人、団体学生147人、団体小中生61人、 合計3,666人

パンフレット配布



ポ ス タ ー

出品目録

紙本金地著色洛中洛外図（六曲屏風一双）	狩野永徳筆	国指定重要文化財	米沢市所有
太刀 銘 長船長光 附打刀拵		重要美術品	米沢市所有
紙本著色既図（六曲屏風一双）		県指定有形文化財	米沢市所有
上杉家文書		国指定重要文化財	米沢市所有
直江大和守（景綱）宛 織田信長書状		（永禄7年） 11月7日	
直江大和守（景綱）宛 織田信長書状		（永禄7年） 11月7日	
直江大和守（景綱）宛 織田信長書状案		（永禄11年カ） 2月8日	
直江大和守（景綱）宛 織田信長書状		（永禄12年） 2月10日	
直江大和守（景綱）宛 織田信長書状		（永禄12年） 卯月7日	
上杉弾正少弼（輝虎）宛 織田信長書状		（元亀2年カ） 3月20日	
上杉弾正少弼（輝虎）宛 織田信長書状		（元亀2年カ） 9月25日	
直江大和守（景綱）・河田豊前守（長親）宛 織田信長書状		（天正3年） 9月11日	
上杉少将（景勝）宛 羽柴秀吉直書		（天正14年） 9月6日	
上杉少将（景勝）宛 豊臣秀吉朱印状		（天正15年） 正月4日	
越前宰相（上杉景勝）宛 豊臣秀吉判物		（天正16年） 6月15日	
羽柴越後宰相中将（上杉景勝）宛 豊臣秀吉直筆		（天正17年） 9月28日	
羽柴越後宰相中将（上杉景勝） 羽柴越中侍従（前田利家）			
木村常陸介（重玄） 山崎志摩守（片家）宛 豊臣秀吉朱印状		（天正18年） 7月6日	
羽柴越後宰相中将（上杉景勝）宛 豊臣秀吉朱印状		（天正19年） 9月12日	
羽柴越後宰相中将（上杉景勝）宛 豊臣秀吉朱印状		（文禄2年） 9月29日	
羽柴越後宰相中将（上杉景勝）宛 豊臣秀吉朱印状		極月28日	
羽柴越後中納言（上杉景勝）宛 豊臣秀吉朱印状		（慶長3年） 正月10日	
河田豊前守（長親）宛 徳川家康書状		（永禄12年） 2月18日	
直江大和守（景綱）宛 徳川家康書状写		（元亀元年） 10月8日	
上杉（謙信）宛 徳川家康書状		（元亀2年） 3月5日	
村上源五（国清）宛 徳川家康書状		（元亀2年） 3月5日	
上杉（謙信）宛 徳川家康書状		（元亀4年） 2月6日	
越後宰相（上杉景勝）宛 徳川家康書状		（文禄3年カ） 卯月2日	
会津中納言（上杉景勝）宛 徳川家康書状		（慶長4年） 9月14日	
会津中納言（上杉景勝）宛 徳川家康書状		（慶長4年） 10月22日	
会津中納言（上杉景勝）宛 徳川家康書状		（慶長4年） 11月5日	
上杉輝虎置名消息手本（複製）		永禄11年10月吉日	
上杉家家中名字盡（複製）		天正5年12月23日	
甲	冑		
栗林治郎左衛門頼忠所用 素懸浅葱糸威五枚胴具足			米沢市立博物館寄託
紫色威二枚胴具足			米沢市立博物館寄託
坂田采女所用具足			米沢市立上杉博物館蔵
金箔押二枚胴腰紅萌黄威段替具足			米沢市立上杉博物館蔵
武	者 絵		
豊臣昇進録		一魁齋芳年画	仙台市博物館蔵
武田勝頼天目山陣取		一猛齋芳虎画	仙台市博物館蔵
武智光年大多春忠の居城をせめる図		一猛齋芳虎画	仙台市博物館蔵
豊臣勲功記 兵曾加部掘之陣江夜討ノ図		一魁齋芳年画	仙台市博物館蔵
本能寺合戦		一魁齋芳年画	仙台市博物館蔵
桶狭間合戦 稲川義元朝臣陣歿之図		一魁齋芳年画	仙台市博物館蔵
酒井忠次時鼓打之図		一魁齋芳年画	仙台市博物館蔵

大平記英勇傳 一勇齋國芳画
 稲川治部大夫源義基（今川義元） 登喜氏（明智光秀）
 尼中鹿之助幸盛（山中鹿之助） 中浦猿吉郎久吉（豊臣秀吉） 他
 大多上總介平春永（織田信長）
 大平記英勇傳 朝霧楼芳幾画
 会津黄門景勝（上杉景勝）
 大平記英勇傳 一惠齋芳幾画
 菊川治部大浦元春（吉川元春） 室田勘触由次官孝高（黒田孝高）
 岸田三成（石田三成） 浮田中納言秀家（宇喜多秀家） 他

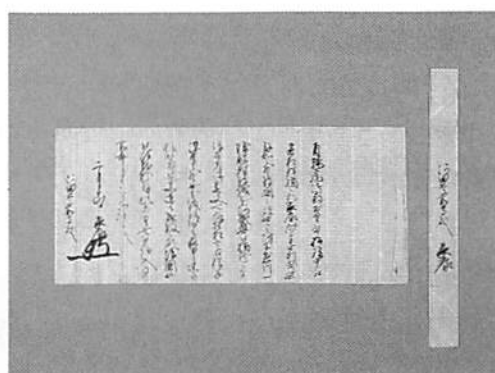
米沢市立南部小学校蔵

米沢市立南部小学校蔵

米沢市立南部小学校蔵

馬柄杓
 馬甲 他
 火縄銃10匁筒（攝州住□□屋小兵衛作）
 弾丸作り道具
 上杉謙信書「第一義」（複製）
 上杉謙信座像

個人蔵
 米沢市立上杉博物館蔵
 米沢市立上杉博物館蔵
 米沢市立上杉博物館蔵
 米沢市立上杉博物館蔵
 米沢市立上杉博物館蔵



河田豊前守（長親）宛 徳川家康書状

花押と印章（上杉家文書より）



織田信長



織田信長

印章 は今日、俗に「はんこ」と言われるものである。印章は「印判」とも称され、武家文書のうちで花押にかえて印章（印判）を用いた文書は「印判状」と呼ばれる。



豊臣秀吉



豊臣秀吉
(3.8×3.6)



豊臣秀吉
(3.8×3.6)

花押 は個人の証明として、文書に証権力を与えるもので、その人の趣向や時代の流行により各種の作り方があり、また個人の特徴、偽作を防ぐための種々の工夫が凝らされた。印判と区別して書押とも呼ばれる。



徳川家康



徳川家康

(2) 出版の文化史

～江戸から明治へ 絵入り本・錦絵の世界～

昨今、書店には様々な絵本が溢れているが、このような絵本出版の隆盛をもたらしたものは何であったか。その歴史はどのようなものか。本展の、江戸中期から明治にかけて刊行された展示資料を通して、出版の歴史や、出版物に描き出された子どもの暮らしぶり等から子どもの文化も考えてみたい。

日本の出版の歴史は古いが、手にするのは一部の特権階級であり、出版が庶民に普及したのは江戸中期以降になる。出版の大衆化現象を引き起こしたのは、女や子ども向けの本で、大いに売れたという。視覚に訴える絵草子や錦絵が生み出され、木版手摺りを土台とする出版活動は明治にも及び栄え続けた。

木版本や錦絵といわれる浮世絵は、高い評価を受けており、世界中の美術館や図書館、収集家に秘蔵されている。本展では、それらの美術品とされる刊行物以外のものに焦点を当て、木版出版の全盛時代に流行した、庶民の暮らしの中にあつた様々な児童図書や家庭図書を中心に展示し、出版物の歴史的発展を視覚的にとらえていただいた。

広重、豊国、国芳といった浮世絵大家在、子ども絵に手を染めており、その作品である双六や「おもちゃ絵」の展示コーナーと、本市出身で、明治の出版界で活躍した吾妻健三郎、大橋乙羽関係資料の特別コーナーを設置した。

出版プロデューサーともいべき地本屋の鶴屋喜右衛門が企て、超ベストセラーとなった柳亭種彦作の合巻「修柴田舎源氏」や、明治の中頃に長谷川武治郎が輸出用として売り出した「ちりめん本」といわれる英訳本など種々様々な出版物を展

示しており、目で楽しみながら、展示品から今日の家庭図書・児童書・教科書のルーツを探っていただけたものと思う。

会 期 平成4年6月2日～7月5日

主 催 米沢市立上杉博物館

主 管 財団法人米沢上杉文化振興財団

入館者数 一般1,865人、学生45人、小中生100人、
団体一般321人、団体学生109人、団体
小中生33人、 合計2,473人

パンフレット配布

・法政大教授アン・ヘリング氏の講演会開催

演題『江戸・明治 子どもの本で繰る出版史』

日 時：6月1日 午後3時30分～4時30分

場 所：置賜総合文化センター、ホール

出版の文化史
～江戸から明治へ 絵入り本・錦絵の世界～

6月2日(火)～7月5日(日)
9:00～17:00(入館は16:30まで) 休館日 毎週月曜日
入館料 / 一般 300円・学生 200円・小中生 100円

米沢市立上杉博物館
主催 財団法人米沢上杉文化振興財団
〒992 山形県米沢市丸の内1丁目4-13 電話 (0238) 23-7302

パンフレット表紙

出品目録

全出品 アン・ヘリング氏所蔵

実用錦絵	新版武者両めんあわせ	芳藤	安政寅年	小林文正堂	義経と四天王
	新版化物づくし	重清	文久元年(?) 申年	山甚 山城屋甚七(八)	
	新版化物づくし	一恵斎落合芳幾	嘉永六年		
	無標題 (五月飾組立て材料orのぼり)	国清	安政六年		
	志ん板芸妓づくし	画家不詳	明治中期	澤村屋板	
	幼稚園用切紙 第拾号(紋切型)	画家不詳	明治二十四年	福田熊次郎	日枝幼稚園撰者
	志ん板猫のそばや	国まさ(政)	明治六年	はんもと ぐそくや	
	志ん板かつら附	幾丸	明治五年か		
	志ん板ねこづくし	芳艶	明治五年か		
	教訓絵(養蚕)	国照か	明治五~七年か		
	寿出世双六	芳藤	明治元年	沢村屋	
	獣物壺(十二支)	貞虎	文政年間	びら辰 (江崎屋辰藏)	
	まわりどうろう きつねのよめいり	画家不詳	文化文政以前	栗	組み上げ
	無標題 まつりの組み立て絵	芳春か	明治二十三年	長谷川	
	新版海漁尽	芳幾	幕末	小林文正堂	
	無標題 絵馬づくし	芳春	慶応三卯年	佐野富	
	新版子供職人尽	国綱	安政五年	辻岡屋文助 (辻文)	
	風刺絵「てならい」 (先生の留守中の寺子屋)	しょうじょう きょうさい			
	新版子供撈廻寿六	国重	明治元~七年	山清版	
	新版両面武者揃	野須賀国あき	明治十七年	鎌日版	
	新版源氏かるた				
	無標題 かつら絵	芳虎	弘化・嘉永年間		似顔絵 坂東しゅうか
	新版百鬼夜行化物尽	芳虎	天保後期		
	浮世多登恵	義盛	幕末	上州屋	
	新版紋切形づくし	画家不詳	弘化・嘉永初期	辻安版	
	新版虫づくし	芳綱	嘉永丑年	山甚 山城屋甚七(八?)	
	新版子供あそび	画家不詳	安政卯年	版元不明	
	官職昇進雙六	画家不詳	安政九年		上方版 } 解説 }
	附録官職昇進雙六付民俗				
	本朝官位昇進双六	画 作 芳虎 万亭應賀	弘化年間	上州屋重藏	



細工用の錦絵 無表題(髪付けの役者絵)
一猛斎芳虎画 山城屋甚兵衛版 嘉永のころ



教訓本 「女児重宝源氏物語り絵巻大意抄」
溪斎英泉編画、泉屋市兵衛版、天保八年(1837)

実用錦絵	仁義五常振分雙六	三世豊国・国芳 ・初代広重	安政午年	山本幸吉板	柳々風下仙果寄
	四季拵び幼稚寿語録	小国政	明治二十八年	森本順三郎板	袋付
	教育女子技藝双六	画家不詳	明治三十五年	松野米次郎	
	武藝立身出世双六	画 三世豊国 作 万亭應賀	弘化年間	上州屋重蔵	
	むすめ諸藝出世寿古録	初代広重	弘化年間	山城屋甚兵衛	袋付
小型本	百物語	画家不詳	明治初期	梅堂国政か	江戸版 木版色刷
小型本	文部省少学入門（仮題）	画家不詳	明治十年代か	大橋堂弥七	
	三十六歌仙雙録	芳虎	安政年間	和泉屋市兵衛	
	手搦ふねづくし	重宣	弘化～嘉永	辻安版	
	新板手搦尽	重宣	弘化～嘉永		
	お伽草子「からいとふうし」	画家不詳	18世紀前期	大阪 渋川版	
小型本	実語教 絵抄 童子教 絵抄	十方舎市丸 暗解並 画	嘉永元年		従来物
小型本	むしゃづくし 本朝武勇伝	国安	文政・天保	錦森堂	
小型本	題名不詳 寺子屋図あり	画家不詳		越後屋治兵衛 他	
折 本	川中島合戦 豆絵巻	重宣	天保～嘉永 弘化のころ	山田屋版	
折 本	碁太平記白石断	重宣	天保～嘉永 弘化のころ	版元不詳	
	無標題 姫様行列	初代広重	天保～嘉永 弘化のころ	版元不詳 江崎屋か	
	無標題 姫様行列	芳虎	弘化	布吉	
従来物	修紫田舎源氏 第三十六編	国貞 （のち三代豊国） 作 柳亭種彦	天保丑年	鶴屋喜右衛門	
	两点絵抄 七ついろは	芳盛	安政年間	吉田屋文三郎板	
上方絵本	導歌教訓童蒙早合點 〃 狂歌蕉後編	画家不詳	天保十年	京都 堺屋仁兵衛	
黒 本	鎌田又八化物退治	富川房信	宝暦・明和の頃	江戸 丸屋版	上下二冊題せん付
文正草子	日本お伽文庫	画 久保田米齋	大正三年	博文館	
英訳本	さるかに合戦	トンプソン 編 小林永濯 画	明治十八年	長谷川弘文堂	墨刷り木版 平紙本、教科書用
	MomoTaro	トンプソン 記述 小林永濯 画	明治十八年	長谷川弘文堂	色刷本、ちりめん仕立 ちりめん本
年中行事	教育小兒遊戯	長谷信道 著 歌川幾英か	明治二十年 十二月	松成堂	
	大和童 三冊合本	西川祐信か	享保～		
	こもち山姥叟	晝鐘成 編画 浦邊良齋 書	文政十年	河内屋平七	
	源氏物語絵巻大意抄	英泉 画	天保酉年	和泉屋市兵衛	
	英語画譜			福田初次郎	英和対照
	新撰童蒙御存			前田金道堂 前田善兵衛	
	教育幼稚遊戯之図		明治二十九年か	松野米次郎	



◀ 和綴じ活字本
渡辺「大橋」己羽著
「上杉鷹山公」
「少年文学叢書・第二十
三巻」
明治二十七年（1894）
東京・博文館発行

(3) 第3回 昆虫展—四季虫街図尽—

山谷コレクションを核に「歴史の語りべたち」、「ところ変われば虫変わる」とテーマごとに展覧会を開催してきたが、第3回目の本年は「四季虫街図尽」と題して標本のほか、米沢で観察・記録されている虫たちを、その住む季節や環境も合わせて絵で表現したものを展示している。屏風仕立てにした生態画の昆虫パノラマは虫がたくさんいた時代をイメージして、実物大二倍の大きさにリアルに描いている。四季や時代の移ろいの中で、虫たちと人々の暮らしや環境はどのように変化したのか。「山谷コレクション」から、今は米沢で絶滅してしまった虫たちもかつて生息していたことがわかり、展示を通して現在の人々の暮らしや環境をふり返る機会にさせていただけたものと思う。

特別展示として「森の蝶・ゼフィルス～西風の精たち～」と題するシジミチョウのコーナーで、日本では東北の一部にしか生息していないチョウセンアカシジミをはじめとする、愛らしく美しいシジミチョウの仲間を展示。その他、本館の昆虫目録に整理・発表したグループ（エンマムシモドキ・コメツキモドキ・シデムシ・オサムシ・タテハチョウ・ツチハンミョウ・ミズアブ）に、世界の昆虫、さらに本市埋蔵文化財発掘により発見された上浅川・大浦C遺跡の昆虫化石も合わせて展示した。

会 期 平成4年7月18日～8月27日
共 催 山形県教育委員会
米沢市立上杉博物館
主 管 財団法人米沢上杉文化振興財団
入館者数 一般5,841人、学生658人、小中生
2,267人、団体一般20人、団体学生38
人、合計8,824人

パンフレット配布



ポ ス タ ー



四季虫街図屏風

米こん虫パノラマ

四季の移ろいの中で、田達の暮らしも変わって行きます。かつて米沢も田であふれかえっていた頃がありました。家があつて、畑があつて、野原があつて、林があつて、砂利道のそばの川にはヘイケボタルがいた、トジロツツやザリガニもいました。少年達は目を輝かせ自然の中に溶けこんで行きました。花を摘み、虫を見れば虫になり、鳥を見れば鳥になり、夢見る様な景色の中で薄眠くなるまで過していました。時間がゆつくりと流れていきました。もうそんな事もないからやつぱり懐かしい。そして今、どこでも普通に沢山いた田ですらうつと少なくなつてしまいました。

うた、いとましい宝物です。今回は田であふれかえっていた頃の米沢をイメージしてパノラマにしてみました。「ジー」と見つめてください。羽音が聞こえるかもしれせん。動き出すやつがいるかもしれせん。

生き物を観察する事は大変楽しい事です。無言の問いかげから始まる終わりのない物語、まる鏡を見て、家族の顔を見て、田の顔でも見てください。きつと昨日と違う一田があるはずです。

(文責 行万茶)



—「パンフレット」より—

(4) 第22回 日本刀展

本年のテーマは、時代的には昨年の「南北朝時代」に続く「室町・戦国時代の名刀展」で、重要美術品の刀剣2口、特別重要刀剣の太刀1口、重要刀剣の刀、短刀、脇差の24口と槍1本の展示品で開催した。

室町・戦国時代の刀剣は、南北朝期の長大で物々しいものは姿を消し、鉄砲の伝来とともに馬に乗っての戦いから歩兵中心の集団の戦いになり、太刀から刃を上にして帯に差す型の打刀へと変っていった。戦国時代に入ると文字通り、全国至るところで戦乱があったために刀の消耗が激しく、需要が追いつかず、いきおい粗製乱造が広く行われた。現存する優れた刀剣は鎌倉時代や南北朝期には及ばないが、強烈な個性が見るものを引きつける。

期間中に、第47回国民体育大会「べにばな国体」があり、開催時に限り重要文化財「上杉本 洛中洛外図」屏風を出展。それ以外の期間は「廐図屏風」を展示した。

講師を招いての講習会を開催。また、国体関係者の入館料を無料とした。

会 期 平成4年9月4日～10月11日
共 催 山形県教育委員会
米沢市立上杉博物館
（助）日本美術刀剣保存協会米沢支部
主 管 （助）米沢上杉文化振興財団
後 援 （助）日本美術刀剣保存協会
入館者数 一般4,888人、学生435人、小中生412人、
団体一般615人、団体学生117人、
その他334人 合計6,801人
第47回国民体育大会公開競技スポーツ芸術協賛

図録作成、販売
パンフレット配布



ポスター

出品目録

- | | | | | | |
|-------------------|------------|--|------------------|------------|--|
| 重要刀剣 | | | 重要刀剣 | | |
| 1. 脇指 銘 信国 | 長さ 一尺二寸七分半 | | 13. 刀 銘 備前国住長船五郎 | 長さ 二尺二寸二分 | |
| | | | 左衛門尉清光作 | | |
| | | | 天文五年二月吉日 | | |
| 重要刀剣 | | | 重要美術品 | | |
| 2. 脇指 銘 平安城吉則作 | 長さ 一尺〇七分 | | 14. 刀 銘 備前国住長船 | 長さ 二尺三寸六分 | |
| | | | 源兵衛尉祐定作 | | |
| 特別重要刀剣 | | | 永禄十二年八月日 | | |
| 3. 太刀 銘 備州長船康光 | 長さ 二尺四寸六分 | | 15. 短刀 銘 祐定作主清房 | 長さ 七寸七分半 | |
| 応永十九年三月日 | | | 天文廿二年二月吉日 | | |
| 重要刀剣 | | | 16. 刀 銘 相州住康春 | 長さ 二尺五寸一分 | |
| 4. 脇指 銘 備州長船盛光 | 長さ 一尺五寸七分 | | | | |
| 応永二十八年八月日 | | | 重要刀剣 | | |
| 5. 脇指 銘 賀州藤島友重 | 長さ 一尺六寸三分半 | | 17. 刀 銘 相州住綱広 | 長さ 二尺五寸七分 | |
| 応永十六年二月八日 | | | 18. 短刀 銘 義綱 | 長さ 八寸二分 | |
| 重要刀剣 | | | 19. 刀 銘 村正 | 長さ 二尺〇五分半 | |
| 6. 短刀 銘 宇多国房 | 長さ 八寸四分 | | | | |
| 7. 脇指 銘 備州長船則光同祐光 | 長さ 一尺六寸六分 | | 重要刀剣 | | |
| 児島ニテ作 | | | 20. 刀 銘 和泉守藤原兼空作 | 長さ 二尺四寸二分半 | |
| 文安二年八月日 | | | 永正十二年二月日 | | |
| 8. 槍 銘 備前国住左京進宗光 | 長さ 一尺七寸二分 | | 21. 刀 銘 兼元 | 長さ 二尺一寸五分 | |
| 文明十五年八月日 | | | 22. 短刀 銘 兼元 | 長さ 七寸七分 | |
| 重要刀剣 | | | 重要刀剣 | | |
| 9. 短刀 銘 備州長船宗光 | 長さ 八寸四分 | | 23. 刀 銘 冬広作 | 長さ 二尺三寸八分 | |
| 長享二年八月日 | | | 24. 脇指 銘 豊州平長盛 | 長さ 一尺七寸八分 | |
| 10. 脇指 銘 備前国住長船次郎 | 長さ 一尺七寸九分半 | | 永正八年二月日 | | |
| 左衛門尉藤原勝光作 | | | 25. 脇指 銘 波平住安 | 長さ 一尺七寸二分 | |
| 永正六年八月日 | | | 寛正六乙酉八月日 | | |
| 重要美術品 | | | | | |
| 11. 刀 銘 備前国住長船与三 | 長さ 二尺二寸三分 | | | | |
| 左衛門尉祐定作 | | | | | |
| 永正十八年八月吉日 | | | | | |
| 重要刀剣 | | | | | |
| 12. 刀 銘 備前国住長船与三 | 長さ 二尺一寸二分 | | | | |
| 左衛門尉祐定 | | | | | |
| 天文三年二月吉日 | | | | | |

(5) 絵図で見る城下町米沢

本館では過去に古絵図展を開催してきたが、今回は絵図の中でも特に、米沢城下絵図を中心とし、さらに米沢藩御用絵師岩瀬家、目賀多家の絵図編集活動を追求して近世米沢の歴史に対する理解を深めていただくよう企画した。

絵図とは、明治前期以前に日本で作られた地図をいい、古代から近世まで作られてきた。そこには現在の地図のような正確さはないが、調査の上、作成されたので比較的正確であり、屋敷や道路が詳しく描かれ、カラフルな彩色が施されているものが多く絵画的要素を持っている。

絵図には国絵図、国境絵図、預所絵図、城絵図、御廟絵図、屋敷絵図、城下絵図、役所絵図、村絵図、堰絵図など多種多様なものがある。国絵図、城下絵図の中には、幕藩体制の行政支配や交通支配などのために作成させられたものなど機密性を帯びたところもあって、絵図は単なる地図ではなく、政治、経済、社会、文化など多くの情報を含んでいる。

本市は上杉氏が270年にわたって支配したところで、全国でも稀にみる絵図類が残っている。

米沢の城下絵図の多くは市立米沢図書館蔵の、米沢藩の藩庁文書ともいべき「上杉文書」にあり、今回の展示はそれらを多用し、江戸前期から末期まで揃えた稀有な機会であった。

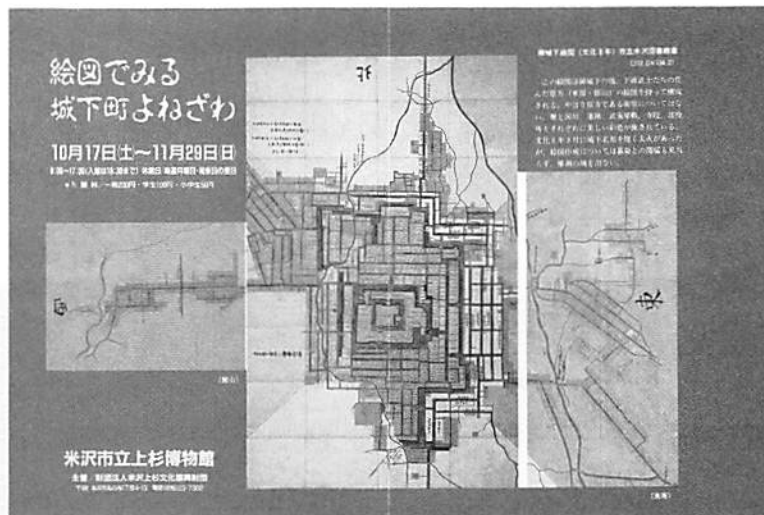
展示品から、城下町の変遷や構成を視覚的に捕え、さらに絵図の大きさ、色づかいの美しさ、正確な記述を見ていただいた。

今なお市街地に残る城下町の面影に、市民の方には感慨も一しおではなかったかと思われる。

会 期 平成4年10月17日～11月29日
 主 催 米沢市立上杉博物館
 主 管 財米沢上杉文化振興財団
 入館者数 一般4,162人、学生168人、小中生
 297人、団体一般885人、団体学生61人、
 団体小中学生112人、その他600人
 合計6,285人

図録作成、販売
 パンフレット配布

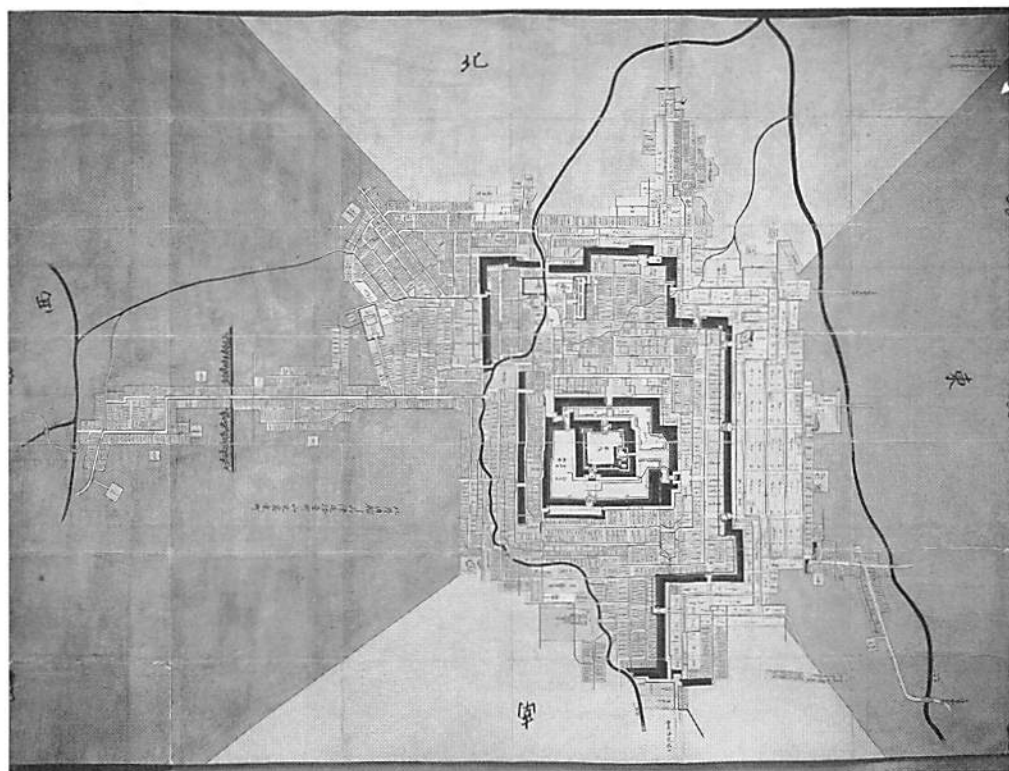
パンフレット表紙



出品目録

寛永17年	米沢城下町絵図	上杉隆憲氏蔵
正保年中	出羽国米沢城図	国立公文書内閣文庫
承応2年	御城下絵図	市立米沢図書館蔵
承応2年	御城下絵図	国司 侃氏蔵
天和元年	御城下絵図	市立米沢図書館蔵
元禄13年 <small>办</small>	旧米沢城下絵図	南陽市教育委員会蔵
享保10年	御城下絵図	市立米沢図書館蔵
享保10年	米沢御城下町数并間数屋舗数書上申帳	市立米沢図書館蔵
享保10年	米沢町方町数并間数屋舗数書上申帳	市立米沢図書館蔵
享保10年	御城下町割略御絵図	市立米沢図書館蔵
明和6年	御城下絵図(原方一南原・東原付)	市立米沢図書館蔵
明和6年	御城下諸屋舗数并花沢南原共目録	市立米沢図書館蔵
文化8年	御城下絵図(原方一東原・館山付き)	市立米沢図書館蔵
文化8年	町家十六町合絵図	市立米沢図書館蔵
文政6年	御家中原々町割帳	市立米沢図書館蔵
文政8年	御城下并原々舗割帳	市立米沢図書館蔵
天保15年	御家中原々町割帳	市立米沢図書館蔵
天保15年	御城下并原々屋舗割帳	市立米沢図書館蔵
弘化3年	御城下并原々屋舗割帳	上杉隆憲氏蔵
弘化3年	町方水帳	市立米沢図書館蔵
元文5年	先祖代々勤書	市立米沢図書館蔵
明和7年	絵図帳	市立米沢図書館蔵
明和8年	御絵図由来覚書	市立米沢図書館蔵
元禄13年	福島領際絵図	市立米沢図書館蔵
年未詳	道中記	市立米沢図書館蔵
文政2年	御絵図目録	市立米沢図書館蔵
文政8年	御絵図土用干日割帳	市立米沢図書館蔵
嘉永5年	御絵図由来書	市立米沢図書館蔵





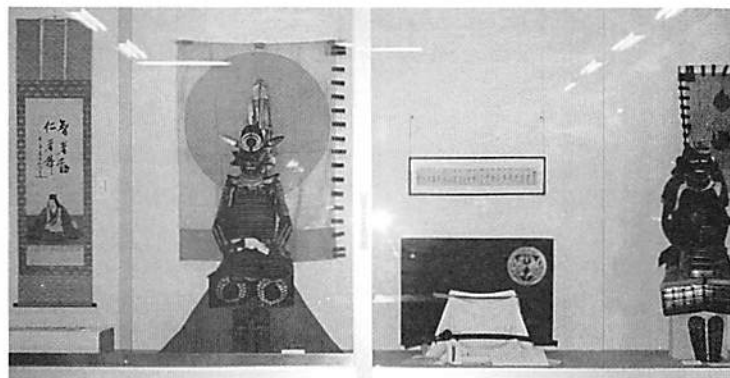
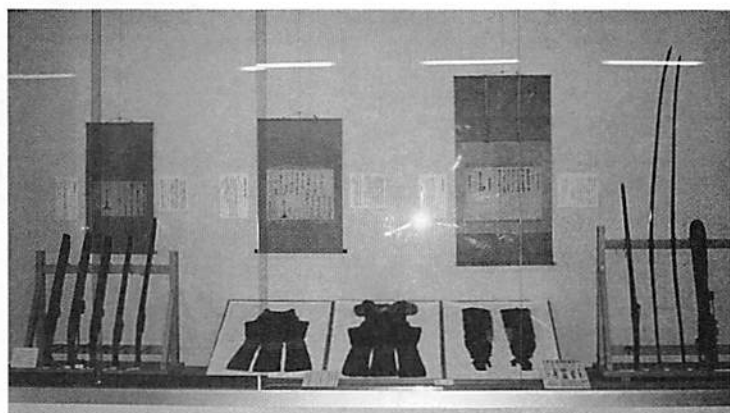
享保10年 御城下絵図

(6) 館蔵品展

本館では、米沢藩上杉家歴代藩主、重臣等の書状をはじめ上杉ゆかりの美術品、由緒ある武具類、郷土出身者の書画、工芸品、古文書等を所蔵している。

県内最初の公立博物館として、昭和42年にオープンした本館も、狭隘化はまぬがれず、特別展によっては全館使用もあることから、冬期間を利用して館蔵品を展示し、公開につとめている。

会期(1)	平成4年5月22日～5月30日
会期(2)	平成4年18月8日～平成5年4月8日
主催	米沢市立上杉博物館
主管	財米沢上杉文化振興財団
入館者数	一般4,515人、学生528人、小中生358人、団体一般982人 合計6,383人

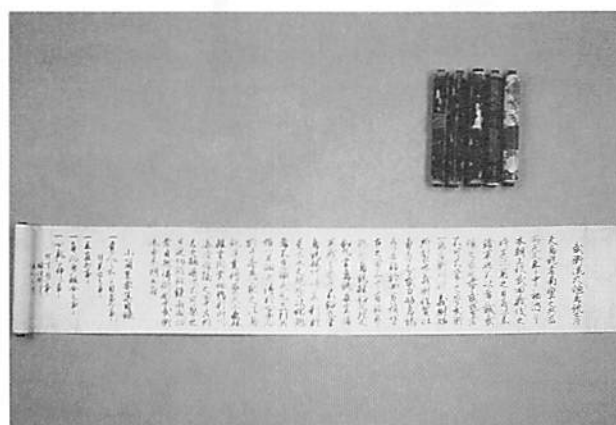


展示風景

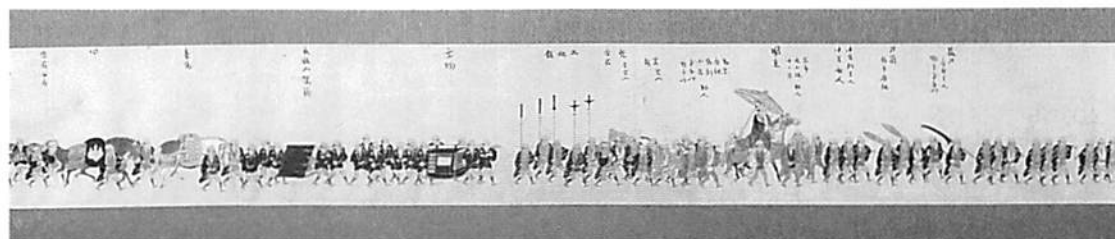
収 集

平成4年度受入資料 (伝来名称のまま)

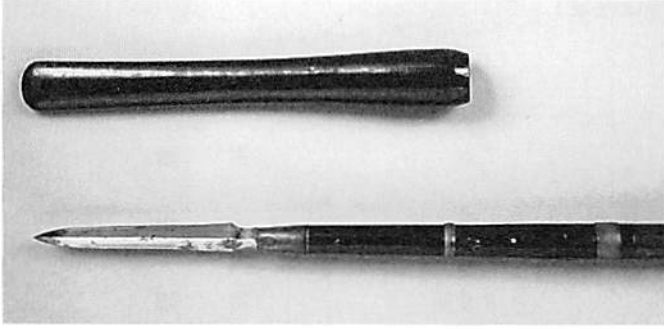
• 書籍			
細井平洲 書	1点		(寄 贈)
• 絵画			
上杉家大名行列絵図	7点		(寄 贈)
• 文献			
雲井龍雄「討薩の檄文」複製品	1点		(寄 贈)
武術流奥義書	六卷 一式		(購 入)
書籍	39冊		(寄 贈)
• 武具			
火縄銃30匁	1挺		(購 入)
直江鍔	2筋		(購 入)
陣中タンポ	1荷		(購 入)
• 自然科学			
チョウセンアカシジミフィルム	2本		(購 入)



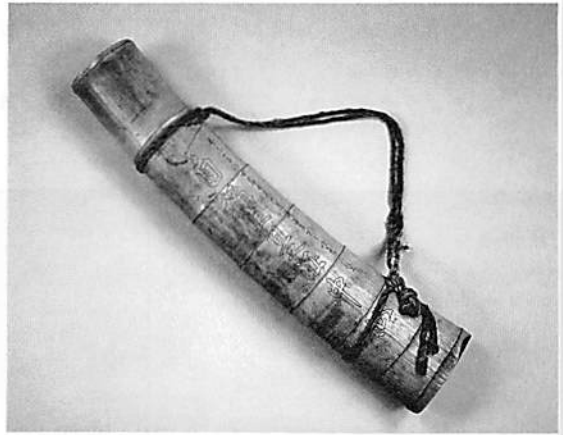
武術流奥義書



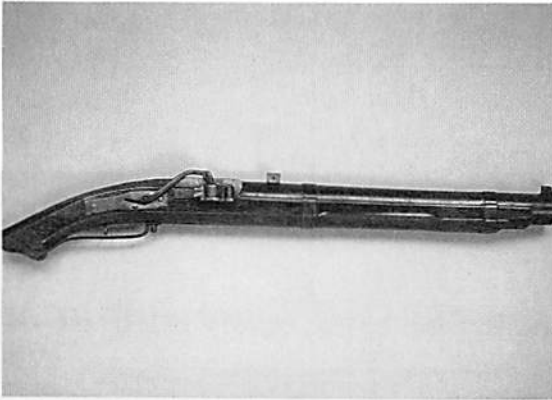
「大名行列」



直江鑢



陣中タンポ



火繩銃 30匁筒

収蔵資料件数

現在、収蔵資料の整理中で、1993年3月31日までに確認した収蔵資料件数のみ掲載する。

(1993年3月31日現在)

大 分 類	中 分 類	件	数
書 跡			144
絵 画			278
美術工芸品	陶 磁 器	45	142
	土 人 形	66	
	彫 刻	12	
	そ の 他	19	
武 具 類			61
民 具 類	衣 装	62	139
	看板・棟札類	21	
	貨 幣	13	
	そ の 他	43	
文 献	個別文書	49	1,472
	嶋津文書	6	
	宇津江文書	15	
	杉原家文書	1,201	
	上杉孝久氏寄贈文書	200	
写 真			8
歴代市長・議長肖像			32
自然科学	動 物	93	95
	そ の 他	2	
		計	2,370

平成4年度 入館状況調

	一 般	学 生	小 中 生	団体一般	団体学生	団体小中生	そ の 他	合計人数	開館日数
4月	1,161人	97人	107人	20人	147人	0人	0人	1,532人	22日
5月	2,515	223	288	180	0	61	0	3,267	18
6月	1,539	36	89	268	79	0	0	2,011	25
7月	1,160	83	238	73	30	33	0	1,617	17
8月	5,007	584	2,040	0	38	0	0	7,669	23
9月	3,352	354	268	476	97	0	104	4,651	21
10月	3,597	146	241	647	20	0	242	4,893	24
11月	2,101	103	200	377	61	112	588	3,542	23
12月	474	20	24	118	0	0	0	636	16
1月	585	23	38	66	0	0	0	712	23
2月	968	119	39	212	0	0	0	1,338	21
3月	1,545	290	161	408	0	0	0	2,404	23
合計	24,004人	2,078人	3,733人	2,845人	472人	206人	934人	34,272人	256日

組織・名簿

米沢市立上杉博物館協議会委員

(平成4年7月1日～平成6年6月30日) (平成4年7月現在)

氏名	役職名
上杉季雄	米沢市小学校校長代表
高橋芳男	米沢市中学校校長代表
草壁喜一郎	米沢市高等学校校長代表
吉野正八	米沢市社会教育委員
栗林一雪	米沢市上杉文化振興財団副理事長
石栗正人	市文化財保護委員会委員長
中川勝	学識経験者
上杉虎雄	〃
大峽孟	〃
菊地伸之	〃
鈴木仁	〃
黒田信介	〃
佐藤美保子	〃
鳥海隼夫	〃
山村精	〃

(根拠法令等)

1. 博物館法第21条(博物館協議会)
2. 教育委員会が任命
3. 米沢市博物館の設置及び管理に関する条例第16条により定数15名、任期は2年
(参考) 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者。

(職務) 一 博物館法第20条第2項 一

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。

平成4年度協議会開催

開催日 3月26日

場所 米沢市産業会館内 教育委員会室

内容 報告 平成4年度博物館事業について

協議 平成5年度博物館事業計画及び予算について

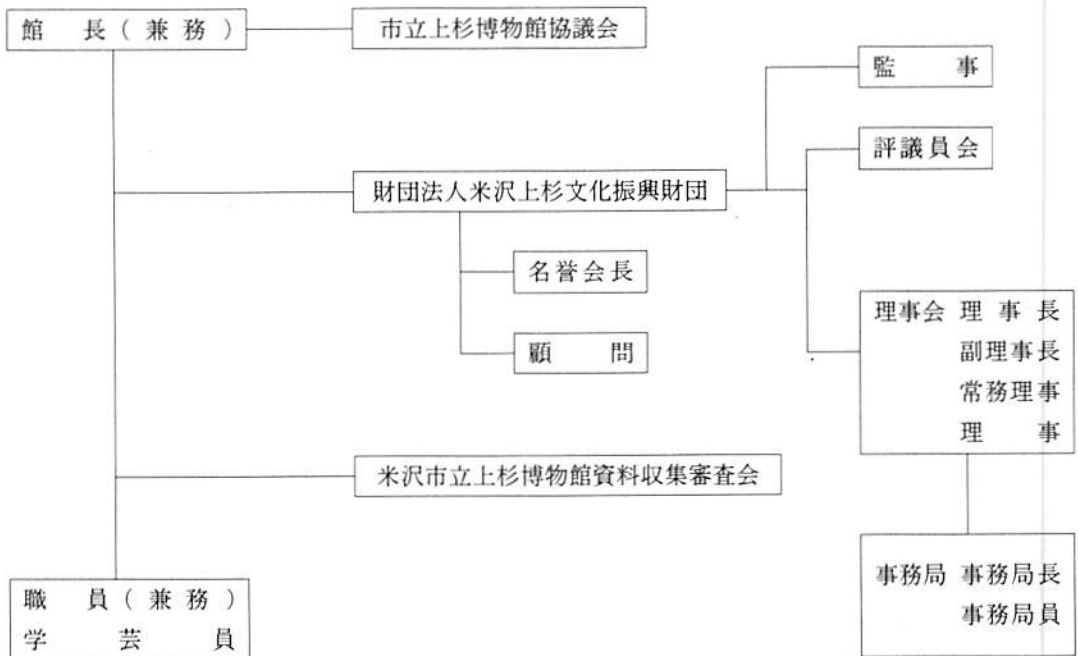
財団法人米沢上杉文化振興財団

本館の管理を委託していた(株)上杉博物館協会が解散し、かわって財団法人米沢上杉文化振興財団が平成2年3月22日設立され、館の管理運営を財団に委託することとなった。

平成元年、上杉家16代当主隆憲氏より、重要文化財「上杉家文書」・同じく「紙本金地著色洛中洛外図」・県指定文化財「紙本著色麁図」・

重要美術品「太刀銘長船長光附打刀拵」の4件が米沢市に寄贈された。当財団はこれを機として設立されたものである。

地域文化の振興を図るため、歴史・文化に関する調査研究及び美術品の公開展示等の事業を実施し、地域社会のより豊かな文化生活に寄与する目的としている。



財団法人 米沢上杉文化振興財団役員 (平成4年4月現在)

名誉会長	上杉隆憲
顧問	高橋幸翁
〃	我妻岩吉
理事長	種村一郎
副理事長	青木厚一
〃	栗林金郎
〃	石塚忠夫
常務理事	小口亘

理事	上杉邦憲	九里茂三	松田俊春
	上杉敏子	小嶋彌左衛門	岡正一郎
	上杉虎雄	山田武雄	北目二郎
	上杉隆治	椿初枝	石栗正人
	算統子	黒金義一	大峽一郎
	山中絢子	庄司吉淳	横山澄生
大乗寺	健英	相田勇	西松野良寅
評議員	小泉秀次	小林泉治	松野信雄
	新田才一	上勝見吾春	荒井地伸
	清水澄良	手塚春勝	菊須貝力平
	井形朝榮	塩川政子	竹田恒茂
	小野伊勢吉	太佐藤美保	鳥海川太勝
	赤木屋勇雄	高橋素子	中木村政信
	新水無瀬正一	高森	木数間正夫
監事	佐々木惇		
	村岡孝助		
	安部紀子		

事務局

事務局長	沖田良夫	
事務局員	菊地米子	
〃	角屋由美子	(学芸員)
〃	星努	

米沢市上杉博物館

館長(兼務)	木村琢美	米沢市教育委員会文化課	課長
職員(兼務)	我妻淳一	〃	課長補佐
〃	小林伸一	〃	文化財係長
〃	平間洋子	〃	文化財主査
囑託職員	佐藤道子	〃	学芸員

平成4年度
米沢市立上杉博物館年報 Vol. 5

編集 米沢市立上杉博物館
財米沢上杉文化振興財団
〒992 山形県米沢市丸の内一丁目4-13
☎0238-23-7302

発行 米沢市教育委員会
〒992 山形県米沢市金池三丁目1-55
☎0238-22-5111

平成6年3月31日 発行

印刷 タカノ印刷(有)
